

(地域施策推進事業)

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費(円)	委託・負担金・直営	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日(部局長会議等)及び評価確定日	事業の効果及び住民の満足度	今後の課題及び取組方向
総務企画部	貝田 理	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	潜在・体験型観光売り込み事業	仙北地域の入込客数・宿泊者数は震災以前の水準を回復しつつあるものの依然厳しい状況であることから、仙台・盛岡圏をメインターゲットとした売り込みを図る必要がある。	993,713	直営	仙台・盛岡圏を対象としたTV局等メディア・旅行エージェントへの売り込み・広告掲載、市町との協働によるPRポスターの作成、管内で開催された種苗交換会活用したPRを実施した。 ・メディア訪問数 延19社 ・テレビロケ招聘 1件 ・無料広告出稿 2件など	県	県内外旅行代理店、観光関係者	平成25年4月1日	売り込みの結果、無料での仙台TV局番組招聘が実現したほか、新聞への無料広告掲載など有料広告掲載以上に数多く露出することができた。またメディアとの信頼関係構築により問合せも多く入るようになった。	売り込みによる無料取材招聘でのTV放映はインパクトがあり広告効果が大きく、費用対効果も高いことから今後も継続していく。旅行誌・タウン誌等への広告掲載についても時期・内容・費用を精査しながら継続していく。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	“食・農・観”PRグッズ作成事業	効果的な誘客PRを実施するため、管内の観光情報を魅力的に伝えるためのPRグッズを作成する必要がある。	255,600	直営	泉ガイドブックを作成したほか、観光・特産品情報を入れ込んだポケットティッシュを作成し、仙台圏・首都圏等で開催した物産展・PRイベントで配付した。 ・ガイドブック作成数: 20,000部 ・ティッシュ配付数: 10,000個	県	観光関係者、観光客	平成25年4月1日	地域の一番の売り込み要素であり人気要素でもある「温泉」に特化した温泉ガイドブックは関心が高く、イベントでの配布数も多い。ポケットティッシュについても掲載情報の精査・更新をしつつ作成継続する。	今年度作成の温泉ガイドブックのほか前年度作成の他種ガイドブック・マップも好評であり、今後、残部管理しながら改訂・増刷の方向で進め、ポケットティッシュについても掲載情報の精査・更新をしつつ作成継続する。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	「こまち路」ドライブマップ作成事業	自家用車で来訪する観光客の利便性を高め、リピーターを増加させるためのツールとして作成する。	289,695	直営	大曲仙北観光圏域推進協議会と協働し季節毎にドライブマップを作成し、県内・隣接県の道の駅、県内主要観光拠点、観光案内所、高速道路会社、空港、レンタカー、フェリーターミナル等で配付した。 ・作成数: 各35,000部	県	観光関係者、観光客	平成25年4月1日	道路情報のみならず、季節毎の発行でもあり、その季節ならではのイベントや食に関する情報も盛り込まれていくことから利用者・配布箇所からは好評である。	車での来訪者からは好評であり事業は継続の必要がある。季節版によるは、対応期間終了前になくなってしまいう状況もあり、各季節版毎の部数の増減も検討していく。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	“田沢湖・角館発”滞在・体験型旅行消費造成事業	“食・農・観”連携や広域観光等の特色を取り入れた“田沢湖・角館発”滞在・体験型旅行商品の造成や販売を支援することにより、県内周辺地域への観光流動の促進を図る。	1,200,000	負担金	仙北市TICが実施する着地型滞在・体験型旅行商品(パンフレット名「あきたTABIYORI」)の造成及び旅行代理店への売り込み、広域観光案内等の事業を支援した。 ・商品造成数: 57 ・販売人数: 644人	仙北市TIC	県外旅行代理店、観光関係者、観光客	平成25年4月1日	旅行商品の販売実績は毎年増加しており、また商品化の過程で観光素材の磨き上げや地元関係者の意識向上にも繋がっている。	メニュー内容が仙北市内完結型が多く広域周遊商品が少ない。販売額も未だ少額で費用対効果面では厳しい。今後、組織自体の検討を進め民間レベルへの移行に向けて検討していく必要がある。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	仙北地域物産展開催事業	食料品・地域産品の販路拡大を図るため製造・販売事業者の支援を行い、併せて観光情報の発信を図るため、仙北地域が一体となった事業展開が必要である。	339,168	直営	県南3地域振興局にも呼びかけ、管内(大曲の花火)、仙台圏(仙台市内2カ所)で物産展を開催した。 ・8/24 大曲の花火物産展(大曲花車) ・10/26～27 秋田がんばろう市(秋田駅) ・9/18～19 仙台駅前 等	県	観光客、仙台圏在住者	平成25年4月1日	各物産展とも多数の来客があり商品は完売となったほかパンフレットも多数配布できた。また、当日購入者からは取り寄せの可否の問合せも多く、販路拡大に繋がると参加業者からも好評であった。	大曲の花火物産展は全国からの多数の来場者へアピールする絶好の機会であり継続することとし、仙台・首都圏については参加事業者の意向や効果を検証しながら進める。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	観光振興班	主幹 佐々木 守	0187-63-5226	広域周遊観光推進事業	仙北地域の入込客数・宿泊者数は震災以前の水準に回復しつつあるものの依然厳しい状況であることから、隣接する地域を訪れた観光客を管内に誘引するための事業展開が必要である。	616,810	直営、負担金	鹿角地域振興局との協働でスタンプラリーを実施し管内観光地のPRを実施したほか、「仙北・雫石地域誘客促進事業実行委員会」を実施主体とする冬季誘客キャンペーンに参画した。 ・9/14～10/31スタンプラリー実施 ・雫石との連携内容: 地方新聞への広告掲載、無料宿泊キャンペーンなど	県、実行委員会	観光客	平成25年4月1日	紅葉スタンプラリーは多数の応募がありアンケート結果も好評であった。仙北・雫石冬季誘客キャンペーンは広告を宮城・岩手・秋田の新聞に掲載したことによる広告効果のほか応募も多数あり反響が大きかった。	入込客数の増加のためには仙台圏・首都圏へのプロモーションも必要だが、気軽な来訪が期待できる隣接圏域へのプロモーションも重要であり、今後も継続していく。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画 部	貝田 理	地域企画 課	観光振興 班	主幹 佐々木 守	0187-63- 5226	県南広域物産展開催事業	県南地域の事業者の販路 拡大への支援を行い、併 せて観光情報の発信を図 るため、県南3振興局の 連携によるスケールメリッ トを活かした事業展開が 必要である。	368,341	直営	県南3地域振興局の連携 により仙台市内及び東京 都庁で各1回物産展を開 催した。 ・4/13～21 仙台卸町 ・12/18～24 東京都庁 ・3/5～7 東京駅	県	仙台圏・首 都圏在住 者	平成25年4月1日	仙台、東京とも多数の来 場があり、リピーターも多 く売上げも好調でイベントが 多く商品構成にも広がり が出ており今後も継続す る必要があるが、より効果 的な時期・会場のリサーチ も実施していく。	県南三局合同でのスケ ールメリットを活かした事業 とした結果、参加業者が 多く商品構成にも広がり が出ており今後も継続す る必要があるが、より効果 的な時期・会場のリサーチ も実施していく。
						平成25年4月1日～平成26 年3月31日							平成26年10月31日		
農林部	足達 信 廣	農業振興 普及課	企画班	主幹 佐々木 幸樹	0187-63- 6111	米サミット開催事業	仙北市で開催される種 苗交換会において、JA、市 町、振興局が連携し、米を テーマとしたシンポジウム を開催し、仙北米の情報 発信と販売戦略再構築の 意識向上を図る。	147,118	直営	25年10月31日に「米づ くりフォーラムin仙北」と して、米サミットを開催 した。 ・場所：JAおばこ角館 支店 ・参加人員：約100名	県、市町	種苗交換 会来場 者、管内 農家	平成25年4月1日	米の販売戦略についての 基調講演と「産地が取り 組むこと」をテーマに生産 者、JA、流通小売業者等 によるパネルディスカッ ションを実施。実需者ニ ーズに即した作付体制と 栽培技術導入に取り組むこ との意識付けができた。	仙北市で開催された種 苗交換会と連携し実施した 事業であるが、今後とも JA等と連携しながら生産 者意識改革を図る研修会 の開催等に取り組む。
						平成25年4月1日～平成26 年3月31日							平成26年10月31日		
農林部	足達 信 廣	農業振興 普及課	産地・普 及班	主幹 高橋 一 志	0187-63- 6110	高冷地野菜等生産団地プ ロデュース事業	仙北市は、高齢化、後継 者不足等により複合部門 の生産振興が進んでおら ず、準高冷地が多いという 立地条件を活かした園芸 振興を図り、実証展示ほ の設置、マーケティングに よる付加価値の高い新規 園芸産地の形成を目指す。	589,697	直営	実証展示ほに白菜30a、 大根1haを作付し、栽培や 販売に係る課題検討を 行ったほか、栃木県の業 務加工用野菜取扱業者と の商談、東京多摩青果と の商談、首都圏の量販 店・スーパーの市場動向 調査等を実施した。	県	仙北市内 農家	平成25年4月1日	過去3力年の気象経過を 温度測定装置で計測した 結果、各品目とも9月末ま までに収穫ができる作型が 安全であることを実証し た。 販売ルートが確立した白 菜については、7月末まで の定植で9月中の出荷が 可能であることが実証され た。 また、大根の新たな販売 先を商談で開拓した。	今後もJA、仙北市と連携 しながら高冷地野菜のプ ランド化を目指していく。 また、ぶな森を起点とし て、徐々に標高を下げた 箇所への野菜ほ場設置に より、端境期の高単価を 狙った切れ目ないリレー 出荷を検討する。
						平成25年4月1日～平成26 年3月31日							平成26年10月31日		
農林部	足達 信 廣	農業振興 普及課	担い手・経 営班	副主幹 瀬田川 守	0187-63- 6110	仙北産「ブルーベリー」メ ジャー化推進事業	近年、ブルーベリーの作 付けが増え、JA等の産地 化に向けた体制づくりも進 みつつあることから、今後 の本格生産を見越し、産 地化のための生産・販売 の基礎固めを支援する。	583,127	直営	技術確立支援として、 剪定講習会(4/11)、先 進地視察(5/31、6/1)等 を実施した。また、販売 体制確立支援として、 試食宣伝会(7/20)等 を実施した。	県	管内農家・ 農業法人	平成25年4月1日	技術確立支援により生産 者の技術力向上と栽培面 積拡大につながった(JA部 会栽培面積13.1ha、前年 比154%)。また、秋田市で 試食宣伝を行ったところ、 ブルーベリーの知名度 アップにつながった。	栽培上、不明点が多い ことから栽培技術の体系 化をさらにすすめ、生産 者の技術向上に取り組む。 一般消費者のブルーベ リーの知名度はまだ低い のでさらなるPR等を実施 する。
						平成25年4月1日～平成26 年3月31日							平成26年10月31日		
農林部	足達 信 廣	農業振興 普及課	担い手・経 営班	副主幹 瀬田川 守	0187-63- 6110	大規模肉用牛生産支援事 業	稲わらは、肉用牛肥育 経営にとって不可欠な飼 料であるが、稲刈り後の 天候が安定しないなどの 理由により、良質稲わらの 確保が困難な状況となっ ている。こうした状況を打 開するため、遅刈稲サイ レーズを稲わらの代替飼 料として利用拡大するた めの検討を行う必要がある。	122,478	直営	平成25年10月25日に 遅刈り飼料稲サイレー ズに係る現地検討会を 開催した。また、9/27、 10/15、10/29に飼料稲 をサンプリングし、飼料 成分分析を行った。	県	管内農家	平成25年4月1日	遅刈りした飼料稲サイ レーズを稲わらの代替飼 料として肥育牛に給与す る技術について理解が深 まり、大規模肉用牛団地 を中心に利用に対する関 心度が高まった。	遅刈りの飼料稲サイレ ージの普及拡大、及び大 規模肉用牛肥育団地を中 心とした具体的な利用方 法について検討する必要 がある。
						平成25年4月1日～平成26 年3月31日							平成26年10月31日		
農林部	足達 信 廣	森づくり推 進課	林業振興 班	主幹 富樫 均	0187-63- 6113	オール秋田でおいしい きのこづくりへの挑戦事業	菌床シイタケの栽培に、秋 田県産の米糠や酒粕、規 格外大豆等を栄養剤とし て用い、生産コストの低減 と安産・安心かつおしい きのこを開発する。	56,490	直営	栽培試験により生育が よく味の良い栄養剤の 混合割合が明らかにな った。十文字の道の 駅で直売によるPRを 行った。森林林業技術 交流会で発表した。	県	高校生等	平成25年4月1日	生産コストの低減や安心 安全なきのこ生産の目 途がたってきたことで、 生産者及び消費者から 実用化技術の確立に 対する要望が高まった。	これまで、実施したヒラ タケ、シイタケの他、 今後はエリンギ、マイ タケについても行う。 栽培期間の短縮、増 量、グルタミン酸等 旨味成分の増強も図る。
						平成25年4月1日～平成26 年3月31日							平成26年10月31日		

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	貝田 理	地域企画課	企画振興班	副主幹 小林 一見	0187-63-5114	技能五輪メダリスト実演会開催事業	高度で優れた技能を直接見て学ぶことにより「ものづくり」に対する意欲を喚起し、産業人材の育成を図る。	453,855	直営	電工部門の銀メダリストを関東から招き、大曲技術専門学校を会場に、県南地域の工業系高校生及び技術専門学校生の訓練生を対象に実演会を開催した。 ・期日：1/28(2回実演) ・参加者数：270名	県	県南の工業系高校の生徒及び大曲技術専門学校	平成25年4月1日	アンケートでは一流の技に対する驚きと羨望の声が多かったほか、仕事に対する姿勢や社会人としての心構えなどに感心する声も多かった。将来の進路に思いを強めた声も多かった。	参加した生徒からの評価が高いほか、県南地域全体を対象としており、継続する。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	企画振興班	副主幹 小林 一見	0187-63-5114	就職面接会開催事業	地域を担う人材の確保と求職者の就労促進を図るため、企業と求職者とのマッチングの場を提供する。	297,544	直営	管内市町及びハローワークと連携し、新規高卒者対象の面接会を1回、新規及び一般求職者対象の面接会1回開催した。 ・10/17 新卒者向け、参加企業31社、高校生54名 ・2/5 新規及び一般向け 企業21社、求職者31名	県、市町、ハローワーク	新規高卒者、一般求職者、管内企業	平成25年4月1日	就職を希望する新規高卒者の就職率100%を達成するために取り組んでいるほか、企業側にとっても多くの新卒者・求職者と面談できる機会として評価されている。	高校生・求職者の参加が減少傾向にあることから、より効率的な開催方法を検討する必要がある。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	企画振興班	副主幹 小林 一見	0187-63-5114	おらほの企業見学会開催事業	管内の小中学生や保護者などを対象に、管内の優れた企業・工場を見学することにより地元企業への理解向上と地元定着の促進を図る。	71,820	直営	小学生2名、中学生2名、保護者2名が参加し、振興局職員の引率のもと、仙北市内企業2社(菓子製造業、電気機械製造業)を見学した。 ・期日：3/25	県	管内小中学生	平成25年4月1日	普段目にすることができない企業の業務内容に触れることができ、地元企業への理解が図られた。	小中学生が参加しやすい時期の開催に留意し、子どもの将来的な地元定着を目指し引き続き優れた企業・工場の紹介に努める。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	企画振興班	副主幹 小林 一見	0187-63-5114	県南地域「ものづくり」人材育成連絡協議会開催事業	県南地区の産業、教育及び行政の関係者が、地域におけるものづくり人材の育成方策について協議する。	0	直営	県南地区の関係者が一堂に会し、それぞれの関連事業について情報共有を図った(5/17)。また、自動車関連の受注機会の獲得を目指すセミナー(岩手県との共催)に参加した(12/3於北上市、1名参加)。	県	県南の工業系高校の生徒	平成25年4月1日	会議の場で出された意見は関連事業実施にあたり参考にしてはいるが、企業側の反応が薄いほか、人材育成への貢献度に関しては明らかでない。	開催方法・内容について検討する。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
福祉環境部	豊島 優人	健康・予防課	健康・予防班	主幹 小野寺 明美	0187-63-3404	大仙保健所地域DOTS推進事業	結核患者の治療完遂のための服薬支援の重要性について関係者の理解や認識を高め、地域の協力による効果的なDOTSの環境を整える。	215,960	直営	研修会等を開催した。 ・講演：「地域DOTSの効果的な進め方」ほか ・期日：H25.8.29(木) ・会場：大曲エンパイホテル ・参加者数：49名	県	管内医療機関、薬局、社会福祉施設等	平成25年4月1日	医療機関・薬局に加え社会福祉施設や市町の参加があり、活発な質疑応答からも関心の高さが伺え、DOTSの理解や認識を高めることができたと思われる。	管内は結核患者の発生が県内で最も多いことから、今後は関係機関の協力を得ながらDOTS実践者を広げるなど取り組みを強化する必要がある。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									
総務企画部	貝田 理	地域企画課	企画振興班	副主幹 小林 一見	0187-63-5114	仙北地域アダプト・プログラム推進事業	公共施設の維持管理に地域住民等が担い手として参画する手段である「アダプト・プログラム」を推進する。	84,025	直営	新たに協定を締結した2団体を含め、8団体が県管理道路等の清掃・美化に取り組んでおり、振興局はゴミ袋、花苗・種子等を提供した。 ・道路：9団体 ・河川：1団体	県	管内企業、自治会等	平成25年4月1日	協定締結済みの団体では構成員の公共施設に対する意識が高まっている。また、清掃・美化活動に取り組む際の手法として認識が着実に深まっている。	他の振興局での取組が増えていることから全県的に実施することを本庁へ求めながら、地域での実施は継続する。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日									

部 名	部長名	担当課	担当班名	担当者名	電話番号	事業名、事業期間	事業目的、必要性	事業費 (円)	委託・ 負担金・ 直営	事業実施状況	事業実施主 体	事 業 対 象 者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業の効果及び 住民の満足度	今後の課題及び 取組方向
総務企画部	貝田 理	地域企画課	企画振興班	副主幹 小林 一 見	0187-63- 5114	ふるさとの環境美化促進 事業	秋の観光シーズン前の時期に、管内の代表的な観光地である田沢湖の景観の美化を図る。	13,360	直営	地元観光団体、仙北市、管内の建設ボランティア等約90名が湯前地区の湖畔約300mで下草刈り、ゴミ拾い等を行った。 ・期日：9/27 ・回収量：約1t	県	県、地元ボランティア	平成25年4月1日	付近の住民や事業者は作業を待ちわびる声が聞かれているほか、作業終了後の変化を好意的に受け止めている。	区間をずらしながら継続する。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日							平成26年10月31日		
福祉環境部	豊島 優人	企画福祉課	調整・障害者班	副主幹 辻田 博 史	0187-63- 3403	障害者自立促進事業	精神障害者に関わる地域住民や関係者が、正しい知識を習得し、地域において精神障害者やその家族が自立した生活ができるように支援の方法を学ぶ。	70,343	直営	講演会を開催した。 ・講演：「地域で精神障害者を支える」 ・期日：H26.2.13(木) ・会場：大曲地域職業訓練センター ・参加者数：106名	県	地域住民、医療機関、就労関係機関、当事者等	平成25年4月1日	地域のメンタルヘルスサポーターや民生委員など多数の参加者が集まり、精神疾患及び精神障害者に対する理解を深めた。アンケート調査では、98%の方が参考になったと回答した。	今後は、市町にも主体的に参加してもらいながら、繰り返し普及と啓発を行う必要がある。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日							平成26年10月31日		
福祉環境部	豊島 優人	企画福祉課	調整・障害者班	副主幹 辻田 博 史	0187-63- 3403	親子のふれあい事業	管内の親子がともにふれあう機会を提供すること、子ども・子育て支援に資する。	244,280	直営	宇宙研究者の夢のある話しを聞くとともに、親子体験教室を開催した。 ・期日：H25.12.15(日) ・会場：大仙市神岡農村環境改善センター ・参加者数：72名(保護者38名、子ども34名) ・講演：「宇宙がむすぶ家族の絆」(講師：的川泰宣(JAXA名誉教授))	県	管内小学生及び保護者	平成25年4月1日	子どもだけでなく、大人も興味ある講演「宇宙がむすぶ親子の絆」、体験「手作りバター」を実施したことにより、目標どおりの参加者が集まり、親子がふれあえる場の提供ができた。	子育て世代に対し、子どもだけでなく、保護者への支援にも引き続き取り組んでいく。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日							平成26年10月31日		
福祉環境部	豊島 優人	環境指導課	環境・食品衛生班	主幹 藤田 治	0187-63- 3694	食品表示適正化事業	直売所の設立等により、身近になった食品加工・販売における許可、衛生的加工、食品表示について研修会を開催し、食品加工、販売の推進を図る。	73,040	直営	漬物に関する安全管理研修会を開催した。 ・講演(「漬け物の安全な製造について」ほか2題) ・期日：H25.12.19(木) ・会場：大仙市大曲交流センター ・参加者数：55名	県	食品製造・販売事業所、一般消費者等	平成25年4月1日	研修会の参加者から、わかりやすい内容だったとの評価を得ている。また、配付した資料「ノロウイルスからまもる」も好評であった。	表示に関する違反もほとんどなくなったことから、効果はあったものと考えられる。今後は、個別に指導するなどの対応を行う予定である。
						平成25年4月1日～平成26年3月31日							平成26年10月31日		